

「チキン・サンデー」(EEホ°)

パトリシア・ポラッコ／作 福本 友美子／訳 アスラン書房



大好きなおばあちゃんにイースター用のぼうしをプレゼントしたい。三人の子どもたちは、ためたお金を集めてみたが全然足りない。店の手伝いをしてお金をかせぎたいとお願いしに行ったら、店に卵をぶつけた犯人だと思われてしまった。ぬれぎぬをはらすには、どうしたらいいんだろう。子どもたちは知恵をしぼってぼうし屋の扉をたたいた。

「字のないはがき」(EC=)

向田 邦子／原作 角田 光代／文 西 加奈子／絵 小学館

戦争がみんなの生活を変えてしまった。大勢の子どもたちが、家族と離れていなかにそ開した。まだ小さな妹も、まるで遠足にでも行くように出発した。「元気な日は〇を書いて出すように」と、父から渡されたたくさんのはがきを持って。つらい時代、家族を思う気持ちが胸にせまる絵本。



「ザビット一家、家を作る」(J748+)

長倉 洋海／著 偕成社

紛争が終結して故郷に戻ったザビットは、新しい家を立てている。トラックの荷台で質素な生活をしながら、子どもたちも手伝っての家づくり。完成までは、あと少し。ザビット夫婦と子どもたちが、力を合わせて築く家族の居場所だ。「100人生まれても、わたしは歓迎するよ。しあわせなことだから」生まれたばかりの8番目の子どもを抱いたサニエの言葉が、家族の深いきずなを感じさせる。

★図書館のお休みや開館時間等は、ホームページでご確認ください★



狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646
狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801
狭山市公式HP <http://www.city.sayama.saitama.jp/>

よむぞうタイムズ

80号

5年生 6年生

狭山市立図書館 2021.3.1発行

三密を避け、マスクをつける毎日。おうち時間がたくさんあったこの一年。がまんすることも、いっぱいあった。きみたちのがんばりを一番近くでみていたのは、家族かもしれないね。今回は家族の本を紹介します。



「ぼくんち戦争」(JPM)

村上 しいこ／作 たごもり のりこ／絵 ポプラ社



へいたの家は、六人家族。全員そろっての晩ご飯は、まるで戦争だ。宇宙人から電話があったと言うおじいちゃん、中学受験でカリカリしているお姉ちゃん、みんなの話がお母ちゃんの気持ちを逆なでする。「この家がバクハツする前に、もっと大人になりな！」ってお姉ちゃんに言われたけれど、ぼくんちはいったいどうなっちゃうの？

「ミカ!」(JF1)

伊藤 たかみ／作 理論社

学校のみんなは、ミカのことをオトコオンナって言う。女あつかいされるのが大きらいなミカは、腹が立てば男子にだって飛びかかっていく。双子のユウスケは、そんなミカをハラハラしながら見守っている。「アタシは女じゃないほうがええねん」気持ちとは裏腹にだんだん女の子っぽくなっていく自分をもてあますミカ。悩んだ分だけ、明日は今日よりもちょっとだけ大人になっていく。



14才になったミカとユウスケの物語「ミカ×ミカ!」(JF1)も読んでみてね。



読書の前後は、手を洗いましょう



「リフカの旅」(JCへ)

カレン・ヘス／作 伊藤 比呂美／訳
西 更／訳 理論社



リフカはウクライナに住むユダヤ人の少女。両親はロシア人に迫害される生活を捨て、家族でアメリカへ移住しようと決意する。兵士の目をぬすみ、貨車にかくれての逃亡だ。しかし、途中で病気にかかったリフカは、たったひとりベルギーで足止めされてしまった。アメリカへの道のりは、まだまだ遠い。

今から100年前、自由を求めてアメリカへ渡った実在する少女とその家族の物語。

「ほんとうの願いがかなうとき」(JSオ)

バーバラ・オコーナー／著 中野 怜奈／訳 偕成社

父さんは拘留所に入れられた。母さんは子どもに関心がない。チャーリーはソーシャルワーカーに連れられ、初めて会うおば夫婦に預けられた。幸運のしるしをみつけて願い事をしたって、何ひとつ思ったようにはならない。



きよせい
虚勢をはり、身構え、怒りをくすぶらせているチャーリーをあたたく受け入れるおば夫婦。孤独な少女が本当の家族を見つけていく。

「幽霊屋敷貸します」(JDト)

富安 陽子／作 篠崎 三朗／絵 新日本出版社

ときこ
季子の家族が引っ越してきたりっばなお屋敷。格安で借りられるなんて何かあるとは思っていたが、なんと幽霊つきの家だった。幽霊は、試験にパスしなきゃ住まわせる気はないと言う。1問目は、この幽霊のニックネームを当てること。そんなのわかるか!!



「ぼくらは世界一の名コンビ!」(JSダ/JMダ)

ロアルド・ダール／作 小野 章／訳 評論社

ダニィの家族は父さんだけ。母さんはダニィが赤ちゃんの頃に亡くなった。でもワクワクするようなことをいつも考えてくれる最高の父さんがいたから、ダニィはちっともさびしくなかった。ところがある晩、父さんの姿が家中どこにも無い。父さんの身に何かおそろしいことがおこったのだろうか。「父さん!どこにいるの?」



「ぼくの帰る場所」(JSデ)

S.E.デュラント／作 杉田 七重／訳 鈴木出版



AJの両親には学習障害がある。「あなたのパパとママは特別」と先生に言われたけど、たいした問題ではなかった。でも、おじいちゃんが亡くなり、家族はパニックに。請求書におびえる両親。電気のメーターが0を指す。三人での生活を守れるか、全てはAJの肩にかかっていた。

「マッチ箱日記」(EE1)

ポール・フライシュマン／文 バグラム・イバトウーリン／絵
島 式子／訳 島 玲子／訳 BL出版

たくさんのマッチ箱の中に入っていたのは、オリーブの種や古い写真。字の書けなかったひいじいちゃんは、日記の代わりにマッチ箱に記憶を収めた。貧しい生活から抜け出すために移住したこと。離れて暮らしていた父親と再会し、家族みんなで一生けん命に働いたこと。開いた箱からひいじいちゃんの物語が鮮やかによみがえる。



「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は狭山市の教育委員会がおすすめしている本です。図書館ではこのマークが目じるしです。ぜひ、読んでみてね。

毎月23日は家庭読書の日 狭山市教育委員会